

令和2年度第1回法政策等フォーラム型実験小委員会議事概要

- I. 日 時：令和2年8月20日（木）13：00～15：00
- II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局 ネット会議（ZOOM 使用）
- III. 出席者：中村主査、高嶋委員、佐渡友委員、井上委員、菊池委員、縣委員
事務局：井端事務局長、中村

委員紹介の後、事務局から2019年度の法政策等フォーラム型実験小委員会の活動報告が行われた後、2020年度の活動方針について検討した。

IV. 確認および検討事項

1. 「2019年度法政策等フォーラム型モデル実験授業」の実施結果の報告について

本協会が目指す事業の意義と昨年度の実施結果について、資料の活動報告に沿って概ね、次のような報告が行われ、質疑を通じて委員間で認識の共有を図った。

- ① 本協会ではアクティブラーニングの質向上を目指して、自ら考え判断し、協働して知性を引き出す授業の仕組みとして、ネット上の学びのプラットフォームで学内外の学生、社会の有識者を交えて議論するフォーラム型授業の有効性を検証するため、「SDGsの観点から食品ロス問題を検討する」をテーマに2大学のゼミで対面授業とネット学修を組み合わせた実験授業を行った。
- ② 神奈川大学の中村チームでは、他大学学生の掲示板への書込みをもとにチーム内で議論し、複合的な視点から意見を出し合い、一つにまとめることができた。課題を自分の問題として捉えられるようになった。
井上チームでは、学生達は自ら選んだSDGsの課題を自主学修し、グループワークで議論することで課題を社会全体の問題として捉え、エビデンスによる問題提起までできた。外部有識者との意見交流を経験することで、多分野の意見を組合せ考察するまでには至らないものの必要性の認識は得られた。
反面、チーム内のコミュニケーションやチーム内リーダーを設ける必要があること、評価用ルーブリックの策定が必要で学生に自己成長記録を書かせ、自らの学修を客観視させる必要があること、外部有識者との協同に不慣れた学生たちに自主的な学修や議論を進めるため、教員には学外有識者との議論促進や、協同掲示板への積極的な書込み活用など学生たちの議論を反映させる働きかけと工夫が課題として認識された。
- ③ 京都産業大学の高嶋チームでは、食品ロスについて自らのことと認識し社会全体の課題として捉えていた。他大学学生の書込みを認識しチーム内で議論することもできた。食品ロスに内在する諸問題を、南北問題や環境問題、貧困問題など他の分野と関連させ、広い視点で発見・検討している。また、環境保護の視点、法律による規制、地方自治体やNGO等の取組みなど客観的データや様々な領域の知見を取入れ、組合わせて考察している報告が多かった。
反面、学生は意見を出し合うなど掲示板を活かしきれておらず、活用に工夫が必要であること、多面的な能力の評価が難しいなどの課題が見られた。
- ④ 外部の有識者からは、学生はSNSでのやり取りには慣れているが、掲示板を利用した実験授業では、「提言」ごとにスレッドを立てスレッド内でテーマに沿った議論を深め、意見を書き込んでいく形がよいのではないかと提言があった。

2. 2020年度における「法政策等フォーラム型授業」の活動方針及び日程について

資料の「2020年度法政策等フォーラム型実験小委員会の活動方針」（メモ）に沿って、実験を進める上で検討しておくべき事項について、授業の目標、授業で獲得する能力、授業の形態・方法、課題の選定、授業の位置付け、チーム編成などの概要について説明が行われた後、以下の2点について検討した。

一つは、実験授業に対する委員の役割として、参加が可能な委員のゼミで行うものであることとし、チームとして参加されなくても委員が有識者として意見を提供したり、委員校の興味ある学生がプラットフォームに参加することができることを確認した。

二つは、どのような課題をとりあげるべきか検討を行った結果、具体的な課題を提示するのではなく、コロナ禍を入り口にしていろいろなSDGsの解決策を考えられるよう、「アフターコロナの世界を考える」の観点から解決案を検討させることにした。

3. その他

今回は、実験授業に向けた詳細計画を検討することになり、9月17日(木)午前10時とした。